

2018年

阿佐ヶ谷市民講座

2月15日(木) 18時30分～

3.11から7年目の福島の実状

—福島原発事故の取材から考える—

■講師 ^{しらいし}白石 ^{はじめ}草さん
(ジャーナリスト。Our Planet-TV代表)

- ・福島原発事故から7年目を迎える。しかし現実には、一向に進まぬ廃炉計画、住宅無償支援の打ち切りなどによる避難住民の帰還強制、県民健康調査の縮小、東京オリンピックにむけてのアンダーコントロールキャンペーンなど理不尽さは増すばかりである。
- ・広告収入のないインデペンデント(独立)系放送局「アワー・プラネットTV」は、設立してから16年、これまで様々な社会問題を精力的に取り上げてきたが、3・11以後は特に原発事故報道に軸を移し、家族の避難問題や甲状腺がんなど子供の被ばく問題をたびたび取り上げてきた。チェルノブイリにも取材し、その経験に学ぼうとしない日本の現状を鋭く告発し続けてきた。
- ・代表理事の白石草さんに、豊富な取材の経験を通して得た福島被曝7年目の現状を伝えてもらい、私たちが何をすべきかを考えて行きたいと思えます。

〈白石草(しらいしはじめ)さんのプロフィール〉

- ・1969年生まれ。1993年早稲田大学卒業後、テレビ朝日系の制作会社、東京メトロポリタンテレビを経て、2001年非営利のインターネット放送局「Our Planet-TV」を設立し代表理事。2005年NPO法人となる。一橋大学準教授。
- ・2012年「放送ウーマン賞」、日本ジャーナリスト会議のJOC賞を受賞。福島原発事故をめぐる東京電力のテレビ会議を取材したドキュメンタリー「東電テレビ会議49時間の記録」で、2014年「科学ジャーナリスト大賞」受賞。
- ・著書に「メディアをつくる～『小さな声』を伝えるために」(岩波ブックレット)、
「ルポ・チェルノブイリ28年目の子どもたち」(岩波ブックレット)など。

- 主催 阿佐ヶ谷市民講座実行委員会
- 参加費 800円(学生400円)
- 会場 劇団展望(東京都杉並区阿佐ヶ谷南3-3-32)
 - 地下鉄丸の内線・南阿佐ヶ谷駅から徒歩3分
 - JR阿佐ヶ谷駅南口から徒歩8分 →(地図は裏面に)
- 連絡先 東京都杉並区今川4-23-15-205(阿佐ヶ谷市民講座実行委員会)
 - 直通電話: 090-8080-6860
- メール: asagayashiminkouza@yahoo.co.jp / ■ブログ: <http://ameblo.jp/asagaya-kouza>

阿佐ヶ谷市民講座の講演集(国機懸たより)バックナンバー

1部200円

1号から20号省略

入用の力はお申し込みください。

※開演は当日のものです。

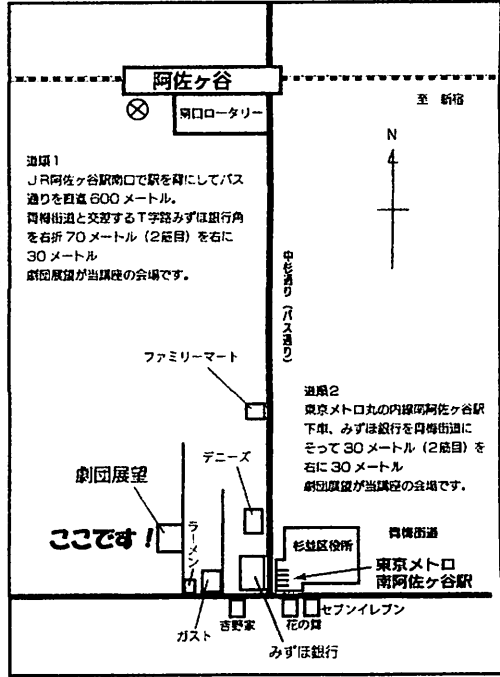
- ◎21号「新改選論とその潮流を批判する」樋口曙一(東京大学教授)
- ◎22号「なんのために消費税か」北野弘久(日本大学教授)
- ◎23号「朝鮮半島の危機と現代日本のマスコミ」宮嶋信夫(評論家)
- ◎24号「今問われる731部隊-軍隊と医学」常石敬一(神奈川大学教授)
- ◎25号「アジアに残された戦争責任」内海俊子(清泉女子大学教授)
- ◎26号「朝鮮から見た戦後50年」姜尚中(国際基督教大学准教授)
- ◎27号「上映と対談『君は『シンドラーのリスト』をどう見たか』」
- ◎28号「今問われる南京大虐殺」藤原 彰(歴史研究者)
- ◎29号「ヒロシマと戦後の核支配」服部 学(立教大学名誉教授)
- ◎30号「戦後50年と社会福祉の現状に思う」川瀬善美(白鷗女子短大助教授)
- ◎31号「検証・アジア報道」永井 浩(毎日新聞編集委員)
- ◎32号「アジアの告発、日本の戦争責任」朴慶植(朝鮮問題研究者)
- ◎33号「司馬遼太郎の世界」尾崎秀樹(文芸評論家)
- ◎34号「ゴミ焼却とダイオキシン」依田彦三郎(元東大助手) 一追悼 尾崎秀樹さんの歩み
- 35号「大衆文学論・植民地文学論について」清原康正(文芸評論家)
- 36号「尾崎・ソルゲ事件」藤田正浩(映画監督)
- 37号「尾崎秀樹と表現活動」早乙女 真(作家)
- ◎38号「石原慎太郎とのケンカのかた」幸淵玉(人材育成コンサルタント)
- ◎39号「『少年犯罪』からみえてくるもの」宮台真司(東京都立大助教授)
- ◎40号「ファシズムの予兆」斎藤貴男(ジャーナリスト)
- ◎41号「日本はなぜ過去の克服ができないのか」高橋哲哉(東京大学助教授)
- ◎42号「学徒出陣から日本国憲法の成立」土屋公敏(元日弁連会長)
- ◎43号「汝、平和を欲すとするは平和を準備せよ」樋口昭一(早稲田大学教授)
- ◎44号「パレスチナとインテリファーター」藤田 進(東京外国語大学教授)
- ◎45号「世界史の中のイラク」飯垣雄三(東京大学名誉教授)
- ◎46号「戦火のバグダッドにて」小野正春(平和運動家) 相沢春行(会社役員)
- ◎47号「終わりのない始まり-イラクと朝鮮」染石日(作家)
- ◎48号「ブッシュの戦争、どこへ行く日本」浅井基文(明治学院大学教授)
- ◎49号「地方自治体が危ない」新藤宗幸(千葉大学教授)
- ◎50号「戦争と教育-教育基本法改悪を考える」小森陽一(東京大学教授)
- ◎51号「なぜ『日の丸・君が代』を拒否したのか」平松辰雄(東京都立高校教師)
- ◎52号「検証・イラク戦争と報道」浅野健一(同志社大学教授)
- ◎53号「都の任用差別問題を考える」鄭香均(東京都保健師)
- ◎54号「現代日本のナショナリズム」吉田 裕(一橋大学教授)
- ◎55号「反戦青年委員会」鈴木達夫(弁護士)
- ◎56号「共謀罪をめぐる憲法状況」足立昌勝(関東学院大学教授)
- ◎57号「横浜事件と治安維持法」萩野富士夫(小樽商科大学教授)
- ◎58号「大連事件と現代」阿瀬利徳(明治学院大学名誉教授)
- ◎59号「夏目漱石と憲法」小森陽一(東京大学教授)
- ◎60号「(首領)は自己責任ではない」湯浅 誠(NPO自立生活サポートセンター)
- ◎61号「『日の丸・君が代』拒否 根津公子さんのたたかい」根津公子(東京都教員 被差別者)
- ◎62号「ここからだから」跡見順子(東京大学名誉教授)
- ◎63号「プロレタリア川柳作家群像とその時代」十亀弘史(迎賓館・横田事件被告)
- ◎64号「歴史変革の主体は労働者だ」川尻信夫(国際労働運動研究者)
- ◎65号「開始された裁判員制度と中世の魔女裁判」宮本弘典(関東学院大学教授)
- ◎66号「新自由主義と大学」森川文人(弁護士)
- ◎67号「危険にさらされる農業・食糧問題」石原健二(元立教大学教授)
- ◎68号「憲法・安保・沖縄」鈴木達夫(弁護士)
- ◎69号「大恐慌と労働運動の興隆」伊藤 晃(近代史研究者)
- ◎70号「激して世界革命を起そうとした演劇家 越前守・佐野原の軌跡を、今、読み解く」香孝行(評論家)
- ◎71号「TPPとはなにか?その本質をえぐる!」石原健二(元立教大学教授)
- ◎72号「官権と消費大脱税 消費税のカラクリを斬る!」斎藤貴男(ジャーナリスト)
- ◎73号「大連事件と幸福水 1911年大連事件 伊外報が近代中国の『バラダム』クリスティーン・レヴィ(ホルダー大学准教授)
- ◎74号「近代日本史の中で見た戦後大連事件」伊藤 晃(近代史研究者)
- ◎75号「311と科学者の責任-川崎浩樹から吉本隆明まで」土井深平(ジャーナリスト)
- ◎76号「新自由主義の崩壊、国際主義を考える」田中昌英子(牛久入収容所問題を考える会)代演)
- ◎77号「安倍政権のNHK兼取り-戦後民主主義の危機を考える-」松田 浩(メディア研究者 元立命館大学教授)
- ◎78号「安倍政権の三〇年代ドイツナチス独裁の成立と、戦後ドイツの歴史認識に学ぶ-」三宅晶子(千葉大学教授)
- ◎79号「『永続戦争』-安倍政権進歩の歴史的背景」白井真(文化化学大学教授)
- ◎80号「反原発、反改選と労働組合-都府労働法にストライキで闘う労働水戸-」石井真一(勤労水戸委員)
- ◎81号「『集団的自衛権』の閣議決定(7月1日)を受けて-今後を考える-」青井未帆(学習院大学・大学院法務研究科教授)
- ◎82号「日本軍『慰安婦』制度と朝日新聞パッシング」林博史(関東学院大学教授 日本の戦争責任資料センター研究事務局長)
- ◎83号「資本論と現代」的理直(神奈川大学経済学部教授)
- ◎84号「福島は今と向き合う-現地からの報告と訴え-」椎名千恵子(福島市在住)
- ◎85号「詩と朗読で綴る無実の政治犯-星野文昭-獄中40年の軌跡-」星野文昭(星野文昭さんつれあい)
- ◎86号「私の見た沖縄米軍基地」ジャン・ユンカーマン(映画監督)
- ◎87号「中東で今なにが起きているのか? -日本人・人質事件と安倍内閣の中東外交-」藤田 進(東京外国語大学名誉教授)
- ◎88号「恐るべきマイナンバー-制度の本質! -安保戦争法と一体の超監視・管理社会と徴兵制への布石-」斎藤貴男(ジャーナリスト)
- ◎89号「福島 何をすべきか-ふくしま共同診療所は訴える」杉井吉彦(ふくしま共同診療所医師)
- ◎90号「民主労組(韓国)20年の歩みとゼネスト闘争-安保戦争法をいかにして打ち破るのか? -」金元直(千葉商科大学教授)
- ◎91号「緊急事態条項」とは何か-安倍、改選がならう恐るべき本質を暴く-」石川裕一郎(聖学院大学教授)
- ◎92号「『愛国心』という落とし穴-ナチズムの教師-」ダニー・ネフステイ(平和・脱原発運動活動家、木工作家)
- ◎93号「安倍政権のメディア戦略-『中立・公正』神話を撃つ-」門奈直樹(立教大学名誉教授)
- ◎94号「戦争経済へ突き進む安倍政権」鎌倉孝夫(埼玉大学名誉教授)
- ◎95号「広島、長崎、ビキニ-福島とつながるカラクリ-ビキニ事件と原水禁署名運動が教えること-」丸江里子(都留文科大学非常勤講師)
- ◎96号「非正規が闘って勝った! -都府労働組合に人生をかけた3ヶ月雇用の生コノ運転手たちの思いの道-」吉本伸幸(東京西部二工オン執行委員長・幹工委員書記)
- ◎97号「『津久井やまゆり園』障害者大量殺害事件について考える」西角純志(津久井やまゆり園)元職員、専修大学兼任講師)
- ◎98号「沖縄戦後史が育んだもの-辺野古新基地建設反対の力-」戸邊英明(東京経済大学准教授、沖縄近代史)
- ◎99号「福島原発事故の意義-検証と脱原発の道-」3.11から6年目の福島の現実」村田弘(福島原発かながわ訴訟団・団員)
- ◎100号「戦後『象徴天皇制』はどこへ行くのか? -『天皇退位希望声明』が意味するもの-」伊藤 晃(近代史研究者)
- ◎101号「治安維持法」と「共謀罪」-「共謀罪」法案は現代の治安維持法-」萩野富士夫(小樽商科大学特任教授 日本近代史)
- ◎102号「トランプ登場後の世界-『資本論』150年、ロシア革命100年のいま-」鎌倉孝夫(埼玉大学・東日本国際大学名誉教授・経済学者)
- ◎103号「『憲法と政治』-安倍改選の本質を問う-」青井未帆(学習院大学大学院法務研究科教授)

お知らせ

当講座呼びかけ人であられた奥平康弘さんのご逝去(二〇一五年二月二六日)にともない、新たに二〇一六年二月から青井未帆さん(学習院大学大学院教授)が呼びかけ人になって下さいました。二〇一六年七月から門奈直樹さん(立教大学名誉教授)が呼びかけ人になって下さいました。

- 阿佐ヶ谷市民講座呼びかけ人**
- 白井佳夫(映画評論家)
 - 麻生和子(日本基督教団神奈川教区「国家機密法」反対特別委員会代表)
 - 白井文也(元東海大学教授)
 - 景山岳夫(弁護士)
 - 藤田 進(東京外国語大学名誉教授)
 - 萩野富士夫(小樽商科大学特任教授)
 - 斎藤貴男(ジャーナリスト)
 - 三角 志(編集工房朔)
 - 青井未帆(学習院大学大学院教授)
 - 門奈直樹(立教大学名誉教授)

阿佐ヶ谷市民講座会場は劇団展望です



道順1
JR阿佐ヶ谷駅南口で駅を降りてバス通りを直進600メートル。阿佐ヶ谷駅と交差するT字路をみずほ銀行角を右折70メートル(2回目)を右に30メートル。劇団展望が当講座の会場です。

道順2
東京メトロ丸の内線阿佐ヶ谷駅下車。みずほ銀行を両側道にまわって30メートル(2回目)を右に30メートル。劇団展望が当講座の会場です。